

にじいろ

令和3年7月
会員八洲病院
法人社団吉田
はいなん
株原郡吉田町神戸2571-6
TEL 0548(32)9111代
FAX 0548(32)9120
診療時間
平日 午前9:00~午後5:00

『時代の移り変わり』

看護部長 佐藤恵美

一昨年から「コロナ禍」により人と会話する事や会うことが自由に出来なくなり、大変窮屈な状態が続いています。

今までの新人教育では、患者様に声掛けをする際に相手に接近し、手に触れてと指導してきました。しかし新型コロナウイルスの流行に伴い、コミュニケーション方法が変化しております、「手袋」「フェイスシールド」「不織布マスク」「ビニールエプロン」を着け、ソーシャルディスタンスを保ち、相手の温もりや表情を汲み取る事も出来ない状況です。これが一般社会の常識となり、生活パターンになっています。通勤電車の車内放送でも、車内での会話を控えるよう繰り返しアナウンスが流れています。過去の常識であつた指導方法と現

状に沿つた指導方法とを、ここ一年半の変化を受け入れ、いずれもとに戻るであろうことに期待もしながら持続していかなければならぬのでしょう。

ITはもちろんのこと、携帯電話もまだ普及していない三十年程前のことですが、新人看護師が、「お弁当は忘れても携帯電話は肌身離さぬ大切なのだ」と言つていて、お弁当の方が大切だと思っていた私は、世代間での考え方の違いに驚いたことがあります。

昭和、平成、令和で約百年経過しています。昭和は古き良きものとなり、令和はIT社会となり、若者が先導となり動いていく時代になつてきています。先日のコロナワクチン接種の際には、パソコンやスマートフォンでインターネットを利用した予約申込方法が選択肢に加わってきており、老人世帯では手続きが困難な場合、自治体や子供、孫世代が手助けをする事がありました。

やすいなどの問題もあります。

これからの令和時代は、今までの自分の足や手を使い、人と人のふれあいで対応していくのでしょう。時代やシステムの変化もあるけれど、古来日本人に変わりはありません。先人達の知恵や経験も大切にしながら、時代の波に乗れるように若い人達の力を借り、手助けをしてもらいながらお互に感謝を忘れず、「コロナ禍」を乗り越えましょう。



藤の花をイメージした藤色が、誠和藤枝病院の『s』
メロンをイメージした緑色が、袋井みつかわ病院の『m』
海をイメージした青色が、はいなん吉田病院の『y』

『はいなん吉田病院に勤めて』

医療相談員 田村有希乃

私が、はいなん吉田病院の医療相談員として入職し2ヶ月が経過しようとしています。

前職では10年間、特別養護老人ホームの生活相談員として、長期入所、短期入所の相談業務を中心に勤務をしていました。当然ですが、医療保険と介護保険では制度が違う為わからぬことが多い、周りの先輩方にご指導いただき、毎日勉強をしながら仕事をしています。

これまでには、利用者様やご家族様へ、なるべく自宅と同様の生活、日常生活の支援などを提案していましたが、こちらは病院ですので、現在の状況・状態に対して患者様やご家族様が何を必要としているのか、どんな提案、支援が提供できるか考えながら業務に取り組んでいます。相談の中で、ご家族の思い、不安、疑問を適切にくみ取ることで、希望に沿う提案ができるいくのですが、まだまだ知識不足の為、すぐに最適な提案ができなかつたり、私の立場では判断できない事も数多くあります。わからぬことがありますたらすぐに先輩に確認

することが必要であると感じ、業務の中で制度等の理解を深める姿勢を忘れないようにしていきたいです。

私の不手際で、周囲のスタッフに迷惑を掛けてしまう事もあります。この不手際から大きな事故に繋がる危険もある為、私がすべきこと、協力して欲しいことを周囲に伝え、患者様に安心して過ごしていただき、ご家族様や周囲の職員から信頼される職員になれるよう努めていきたいと思います。



職員募集

- 正・准看護師
- 介護職員

詳しいお問い合わせは 0548(32)9111 事務長まで

<http://hainan-yoshida.jp/>

編集後記

今年は一年遅れでオリンピックが無観客でか開催されます。

コロナ感染はいまだ終息に至っていませんので、感染対策はまだ必要になります。一人一人の努力が無駄にならないよう、気を引き締めて感染対策に取り組んでいきましょう。

(U)